

# 1. 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2970600397		
法人名	有限会社おいていか		
事業所名	グループホームちゃんて		
所在地	奈良県桜井市大福233番の16		
自己評価作成日	2012年5月10日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kohyo-nara.jp/kaigosip/Top.do">http://www.kohyo-nara.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 Nネット
所在地	奈良市登大路町36番地 大和ビル3階
訪問調査日	平成24年6月15日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

四季折々の行事は、ご利用者様を中心に地域の方、利用者様ご家族様と、スタッフの家族が共に楽しめている。介護支援においてチームの連携を大切に行っている。スタッフが明るい。チームのリーダーは、互いの業務状況をノート交換しており、情報交換や、勤務に入る前に、当日のプランニングが出来ている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人名「おいていか」、グループホーム名「ちゃんて」はアメリカ原住民の言葉で前に進む勇気と家族を大切にしようという意味があり、事業所の運営理念となっている。管理者、職員は利用者の喜び、楽しみを作り出すことを目標に安全に配慮しつつ日々取り組んでいる。職員間のコミュニケーションも良く取れ、上下の隔たり無くケアに関しての気づきを言い合える関係にある。地域や家族にも受け入れられた明るいグループホームである。

## ・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

## 自己評価および外部評価結果

セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-)です。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員は、事業所理念を基に介護支援を行う。同時に、スタッフで作り上げた独自の「安全行動指針」に基づいた行動をとる	責任に裏づけされた人間愛を基軸にそこから生まれる敬愛と親愛の心を大切とうたう理念のもと、これをより具体的に表した「安全行動指針」を作成し実践に生かしている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	スタッフとご利用者は近隣散策時に近隣の方との挨拶をかかさない。お祭りへの参加や地域ボランティアの活用	大福北地区役員や民生委員、近隣住民には事業所を理解して頂き、地域の行事に参加したりこちらの行事に参加してもらったりの関係ができています。調査当日も田植えを見学に来ないかとお誘いがあった。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域より依頼を受けて認知症の講習会を開いた実績がある	/	/
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて地域の参加出来そうな行事を教えて頂きご利用者様と参加している	昨年は2回実施し、地区役員、民生委員、家族代表、施設長、ケアマネージャーの参加を得たが、行政からの参加は得られなかった。活動報告の他に行事参加への対応方法など話し合わせ、事業所の行事を住民の方が楽しみにしているとの記録もあった。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	広報誌と共に毎月作成しているスタッフからの手紙を見て頂いている イベントへの参加呼びかけ	広報誌や手紙などを届け、こちらから働きかけるように心がけているが、運営推進会議や行事への参加はない。	市社会福祉協議会や他のグループホームとの連携などによって、地域密着型サービスの重要性に行政が目を向けてもらえる働きかけを続けていただくよう期待する。
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	見守りが常に出来る状況を創ること(スタッフの人員配置含め)が安全な身体拘束ゼロ活動だとする(安全行動指針を基にスタッフ間声掛け)施設内研修	研修やミーティングで話し合い、身体拘束をしないケアの重要性は認識されている。夜間には家族同意のもとセンサーを使っている利用者もある。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている		/	/

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している			
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	どうしても時、ご自宅まで行きお話をさせていただいた		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議ではご家族様代表の意見も反映している。ケアプラン作成時に 面接、意見意向確認	家族アンケートを取り、意見の把握に努め、面談時には担当スタッフも交え話し合いがされている。家族の好意で畑を借りることができ、利用者の楽しみになっている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例ミーティング、リーダー会議以外にも、随時意見の出しやすい環境を創っている リーダーと管理者はコミュニケーションツールを使用している	月1度開催される定例ミーティングは全員が参加し、利用状況や報告、行事の打ち合わせなど話し合われている。職員意見により作成された「安全行動指針」は日々のケアに常に生かされ実践されている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフの誕生日プレゼントやイベントでの最優秀パフォーマンスには社長より食事ご招待		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月何らかの社内研修と適任者への社外研修参加等		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	最寄りの同業者同士、イベントの見学や道具の貸し借りが盛んである		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居頂く際にはご家族様を含め、しっかりと話し合いの席をもうける		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居頂く際にはご家族様を含め、しっかりと話し合いの席をもうける		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	努めている		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物や新聞たたみ、室内のデコレーション等、共に作業する		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の面会時間帯などはなく、いつでもおこしいただいている		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期受診は馴染みの病院をそのまま受診いただいている。ご友人の方にも気軽にお越しいただける環境を創っている	家族、兄弟、民生委員、友人などが面会に来られている。花見や畑での収穫、職員の子供の来訪、愛犬との交わりなど利用者の喜ぶことを大切にしてケアにあっている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の助け合いをスタッフが見守る形をとっている		
22		関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ターミナルケア終了後も交流がある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアカンファレンスを毎月見直す点で、本人本位に検討する機会が多々ある	情報シートや品質月報より思いや意向の把握に努めている。声かけはコミュニケーションの第1歩と考え、常に利用者にあわせた声かけを行い、気づきを共有している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居頂く際にはご家族様を含め、しっかりと話し合いの席をもうける		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録の回覧と業務日誌によりスタッフ全員が共通認識を行っている		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議を開催している	管理者、リーダー、医師、訪問看護師、担当者が参加しての担当者会議で介護計画の検討を行い、家族にも説明をしている。ケアカンファレンスには家族も参加してもらって利用者の状態の再評価も行なっている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録の回覧と業務日誌によりスタッフ全員が共通認識を行っている		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様の送り迎えやご利用者様の畑に同行し、農作物を作っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の秋祭りやバザー、カラオケ大会などに参加する		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診は馴染みの病院をそのまま受診いただいている。	入居前に掛かっていた医師や病院への通院を大事にしながら、事業所の協力医にも定期健診をしてもらい、緊急時24時間対応をお願いしている。訪問看護記録や受診結果を家族に送付している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎月2回訪問看護にきて頂き、スタッフに役立つ情報、知識をご伝授頂く。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地域の診療所の看護師、医師にはとてもお世話になっている。良い関係を持たせて頂いている		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階で説明と同意書を頂く	「看取り連携体制についての同意書」を作成し、早期に話し合われている。協力医、訪問看護師、の指導のもと職員数を増やし対応している。昨年は1名、今年に入っですでに2名の方を看取っている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年間スケジュールに組み込まれている		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	建物横の駐車場所有者が協力くださっている	防火、避難訓練は実施されており、避難場所は隣に駐車場があり所有者の許可を得ている。災害緊急時にはサイレンを鳴らし地域に知らせる対策が取られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年間スケジュールにプライバシー保護の施設内研修を行っている	プライバシー保護の研修を行い、職員に周知を図ると共に、重要事項説明書にも明記し家族へも宣言している。守秘義務を厳守している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフは利用者本位で日常生活を送って頂けるように声掛けには注意を払っている。本人の意思を引き出すのも介護技術である		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のサービスの利用として、散歩、外出をとっている		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選択、おしゃれに絡めた会話から、身だしなみへの意識を維持継続出来る様サポートする		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りは時としてお手伝いいただく。あくまでも強制はしない。調理が困難な利用者様であっても、食事開始前より、「今から食事ですね。今日の食事当番は～ですよ」など、会話やにおいて食事への気分作りを行う	食事にはこだわりを持って取り組んでおり、畑で作った野菜や近隣からの頂き物を、水はごろごろ水を使用するなど安心、安全な食材を使って手作りしている。職員は楽しく話しかけながら心配りを怠らず共に食事をしている	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量は毎日調べている。食事量、状態など、出来る限りひとりひとりに応じている		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアはゆったりと時間をとり、施設内研修で歯科衛生士の抗議を職員が受ける機会を設けた		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	施設の方針は「出来る限りオムツの使用をしない」である。口頭でのトイレ誘導もそれぞれに行い、失敗を防いでいる	ホールのホワイトボードにプライバシーに配慮しながら、全ての職員が共有できるよう排泄状況を記入し、トイレ行動が上手く支援できるように努力している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来る限り薬にたよらないで済むよう、個々に応じた予防に取り組んでいる		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている		週2～3回の入浴を実施している。利用者の重度化が進み、2人体制で入浴介助を行っている。おもしろ風呂の日を作り、入浴剤を入れたり、ゆずやカボスを入れるなど楽しむ工夫をしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者に応じて、お昼寝などもとりいれている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフは服薬に対し細心の注意を払い、クロスチェックも行っている		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑リーダーや新聞リーダーが存在している		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	お出かけでは、遠方大阪まで出かけることもある	1日1度は出かけるよう心がけており、午前中の散歩はできるだけ実施している。畑に行くのが利用者の楽しみになっていて、畑リーダーを引き受ける方もある。近隣の行事参加や、花見、ドライブなどお出掛けを喜ばれるので、積極的に実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の保持はしていない		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ケースによるが、ご家族様と電話でお話していたり、遠方のご家族様の手紙拝読支援を行う		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには四季の飾り。デッキテラスでのくつろぎ	食堂兼居間の壁には利用者の塗り絵や行事の時の写真、利用者の似顔絵などが貼ってあり暖かい雰囲気をかもしている。天井の明かり窓の側面には大きな絵画(管理者の作品)がかけられており、それぞれの絵が事業所が目指していることを語っているように思われる。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室やデッキテラスで一人の時間をすごしていただける(見守りが不必要な場合)		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には以前使われていた家具等を用意していただき、生活の色を残して頂く	利用者の重度化にあわせ、固定式ベットから電動式ベットに入れ替え、利用者や介護者の負担軽減を図っている。室内への家具などの持ち込みは自由で、ある利用者は孫の写真飾っておられた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、洗面所の表記や、スタッフが見守りしやすい建物構造を作っている為、極力見守り支援を心掛ける		